

第143号

教育



副会長挨拶
三河公立小中学校
女性管理職者会会長挨拶
総務委員会
研究大会・研修会等の報告
今後の研究大会・研修会等のご案内
三教研公式ウェブサイトののご案内



『わかるよ、だって…』

三河教育研究会 副会長

中 神 和 也



七月に入った頃の話です。ロータリークラブの依頼で、夏休みを通じてペットボトルキャップを集めることになりました。入れるためのかごを作り、大きなポリ袋を校長室前の廊下に用意しました。すると翌日から「ジャラジャラ」と音がして、日替わりで次から次へと小袋に入れたキャップを持つてくる子どもたちで校長室前は賑わっていました。そんなポリ袋がいっぱいになった頃です。私が、近くにいた三年生の子どもたちに「これで何個くらい集まったかな」と声をかけました。「百個はいったね」、「いやもつと、千はいってるよ」と嬉しそうに声を弾ませます。さらに「どうやったらわかるかな」と声をかけると、「数える」、「えつと、十個ずつ数える」、「わかるよ、だって簡単じゃん。重さを測って…」。私が「えつと、どうするの」と聞き返すとその三年生の女の子は「一個の重さを測って、全体の重さも測って、それで、えつと、一個が何グラムあるかがわかって、全体が何個分かが重さから…、それでいくつかわかる」と返してきました。休み時間も終わりのので、「すごい考えだね」と話し、その場は終わりました。

新型コロナウイルス感染症によりさまざまな生活が制約を受け、子どもたちの生活も大きく変わってしまった数年間。教育でのAI活用の可能性が叫ばれる一方、実体験の大切さが再認識されています。この子らが、九十リットルのポリ袋に入っているキャップのかさを具体的に目にし、量感を感じ、どう調べようかと考えをめぐらせる姿に学びの価値を感じざるを得ませんでした。また、ただたどしくも、直感的に考えた解決の手段を伝えようと言葉を選び、説明しようとする姿に感動すら覚えました。

三河教育研究会では、授業づくりの講義と授業研究会をセットにし、事前の学びから実体験を通して、中堅教員の力量向上を図るためのきっかけとなるように『授業力養成講座』を平成二十二年度に立ちあげました。教材研究を進め、実践を通して自らの営みを振り返る研究活動です。

「はじめに子どもありき」の理念のもと、授業実践で子どもの成長を語れる教師、子どもたちを丸ごととらえ、とらえ続けて、導く姿が求められております。これからも、子どもたちの生活に根差した、子ども一人一人の可能性を引き出す教師の営みを大切にしていきたいものです。

思いを紡ぐこと

三河公立小中学校女性管理職者会 会長

川 原 三 佳



学校にタブレット端末が導入され、子どもたちも教師も、様々な場面でタブレットを活用しています。連絡帳の代わりにデータを見て必要な用具を揃え、課題の提出は、「送信」をクリックすれば完了といったことが、決して珍しくなくなりました。タブレットは、大変有能な学習用具の一つとして、大活躍しています。スマートフォンにタブレットを使いこなす若者を横目に、私は、その取扱いに苦戦を強いられています。

先日、五年生の女の子が、新聞記事を書きたいのでインタビューさせてほしいと、タブレットを持ってやってきました。彼女は、聞きたいことをタブレットに打ち込んで準備していました。質問に私が答えると、彼女は領きながら聞いていました。「メモしなくても大丈夫？」「老婆心ながら尋ねると、「大丈夫です。録音していますから」と、明るい声で返事がありました。最後に写真を撮り、取材は終了しました。「上手な取材です。記事をぜひ読ませてね」と褒めると、彼女は笑顔を見せ、一礼しました。私は手際の良い取材に感心し、授業後、担任に声をかけました。担任は、「国語の授業で新聞について学習し、それを生かして、自分で何を聞か考えたようです」と答えました。

後日、担任が出来上がった記事を見せてくれました。記事は二百文字程度でまとめられ、私が取材で話した「あいさつの大切さ」を全校に発信する形になっていました。結びには、「元氣にあいさつができるといい」と、この取材を通じて生まれた彼女の思いが記されていました。今回の取材で活躍したのはタブレットですが、書き手の思いや意図が伝わるように、限られた文字数の中で構成や表現を工夫した結果、読み手の心に響く記事が完成したのだと思います。

ICT機器は今後ますます進化し、学校でも活用の幅がさらに広がっていくでしょう。デジタルの力で、より豊かな表現が可能になるかもしれません。それでも、「誰にどんな思いを届けたいのか」という意識をもつことにより、自分が本当に伝えたいことを相手に届けられるように感じます。手段がデジタルでもアナログでも、書き手が自分の思いを紡ぎ、苦心して表すことの大切さには変わりがないと、改めて考えさせられました。

学び続ける三河の教師

令和六年度 研究大会・

夏季研修会を終えて

総務委員会

総務委員会では、五月二十二日の定期総会以降、役員会・常任委員会を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・各委員会の夏季研修会などの充実について、協議を重ねてきました。

本年度は夏季休業中に十六の研究大会・研修会が開かれました。生き生きと学ぶ子どもたちの姿の実現を目ざし、よりよい授業づくりのヒントを得ようと活発な議論が展開されました。秋以降には七つの研究大会が計画されています。研究大会・研修会で提案された指導案は、ウェブページに掲載していきます。

また、授業力養成講座Ⅰを、東三河は八月二十一日に蒲郡市民会館にて、西三河は八月二十二日に豊田市教職員会館にて開催しました。いずれも多くの受講者が集い、熱心に研修が進められました。研究大会や研修会、授業力養成講座での学びが、これからの三河教育の推進に生かされることを期待します。

なお、研究大会・研修会の運営に際し、関係市町村教育委員会・関係機関の方々にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

研究大会・研修会等の報告

国語

言葉による見方・考え方を働かせ、正確に理解し、適切に表現する力を育てる国語科の授業

令和六年度 国語部会夏季研修会
期 日 八月二日（金）
場 所 田原文化会館
参加者 三百二十八名
講演会 「不便だからこそこの益があるという発想」
講 師 京都先端科学大学教授 川上 浩司 氏

各分科会では、研究テーマに沿った実践についての提案がなされました。協議会では、提案者の確かな実践をもとに、活発な議論が展開されました。子どもたちが正確に理解したり、適切に表現したりする力を育てるための教師支援について、多くの先生方が熱心に協議に参加される姿を見ることができました。

講演会では、中学一年国語「不便」の価値を見つめ直す」の筆者である川上浩司氏をお招きしました。不便のなかにも実は利益があるという「不便益」の考え方をもち、子どもたちの成長につながる授業や環境づくりのヒントを学びました。

最後に、本研修会を支えてくださった田原地区の先生方、提案・助言・司会の先生方に心より感謝申し上げます。



講演される川上浩司氏

「伝えたい」思いを引き出す

豊田・高岡中 坂元 友佳

中学校「話すこと・聞くこと」の分科会に参加しました。プレゼン発表における、子どもたちの「伝えたい」思いを十分に引き出すためのテーマ設定、情報整理のデータシート作成、より伝わる発表を届けるためのプレゼンアイテムの活用などの手立てによって展開された実践でした。子どもたちが試行錯誤しながら、主体的に表現する力を高める様子から、手立ての有効性を感じました。

協議会では、参加された先生方と表現する力を高めるためのアイデアを共有しました。先生方との対話を通して、「話すこと・聞くこと」の授業において、生徒が発表の必要性を感じるにつながるような、「伝えたい」思いを引き出すことが何よりも大切であると学びました。今回得た多くの学びを、今後の授業づくりを生かしたいです。

書写

令和六年度 書写実技講習会
期 日 七月二十六日（金）
場 所 むらさきかん（岡崎）
参加者 五十二名
講演会 「書写」教科書のウンとホント」
講演・実技講師 岐阜女子大学教授 中根 海童 氏

学び直す大切さ

刈谷・刈谷東中 上野 義峰
みなさんは、書写の指導に自信をもっているでしょうか。私は、小学生の頃に通っていた書道教室の教えを思い出しながら、何とか指導をしています。

この度、書写実技講習会を受講し、「穂のS字形」「穂の捻れ」「穂の背の線」という基本を再確認できました。また、講師の中根海童氏の実技指導を賜うことができ、講演の中で教えていただいた基本を、体感して学ぶことができました。

中根氏のお話の中で最も印象深かったのは、「指導者が基本を学び直すことによって、上手くできずにもどかしさを感じている児童生徒に、できた喜びを味わわせることができる」という言葉です。このことは、書写に限らず、どの分野においても、我々教師が大切にしていけるべき心掛けではないでしょうか。

この講習会は、私にとって、教師自身が学び直し、自信をもって指導する大切さを再認識できた機会となりました。



実技指導される中根海童氏

社会

社会的な見方や考え方を働かせ、

仲間とともによりよい社会づくりへの

参画をめざす社会科の授業(三年次)

令和六年度 社会部会夏季研修会

期 日 八月六日(火)

場 所 岡崎市民会館

参加者 三百三十六名

講演会 「社会科の見方・考え方を

働かせた授業づくりの

ポイント」

講 師 文部科学省初等中等教育局

教育課程課 教科調査官

小関 祐之 氏

分科会 小学校 三分科会

中学校 三分科会

隔年で開催されている社会部会夏季研修会が、八月六日に岡崎市民会館で開催されました。当日は、三河地区全域から多くの先生方を迎え、盛会のうちに幕を閉じました。

講演会では、文部科学省の教科調査官であられる小関祐之氏にお話をいただきました。「社会科の見方・考え方を働かせた授業づくりのポイント」だけでなく、小学校と中学校や中学校と高等学校の社会科のつながりを意識することの重要性を教えていただきました。

また、社会科的な見方・考え方と問いを関連付けることで子どもたちに身につけさせたい能力を育成することができるという発想は、わたしたちが社会科の授業を

構想するうえで、大切にしていかななくてはならないものであると実感しました。

講演会の後は六つの分科会に分かれ、各地区の実践が提案されました。小関氏にも引き続

き、助言者として参加して

いただきました。

グループで話し合うな

ど分科会ごとに工夫が見ら

れ、地区を越えて社会科の授業について語り合う姿が見られました。

最後に来賓の先生方をはじめ、分科会の内容を深めていただいた助言者の先生方、並びに関係諸機関の先生方に深く感謝申し上げます。

主体的に考えを構築する生徒をめざす

現代から時間を遡るほど、歴史を自分事として捉えることが難しくなります。歴史に問題意識をもって、主体的に考えを構築する生徒を育てたいという願いをもち、授業を行いました。学区で起きた寛政一揆を取り上げて、立場が弱いはずの百姓の勝利を知った生徒は、驚き、なぜそうなったのかを考え始めることができました。

助言者の先生のご指導を受けて、今後は歴史と現代を比較し、未来を考えることで、将来社会に活躍する主権者を育てていきたいと思っています。

刈谷 刈谷南中 青山 陸也

令和六年度愛知県数学教育研究会小中学校部研究大会田原大会を、田原文化会館にて開催しました。三河をはじめ、県内各地から、多くの先生方にご参加いただきました。

分科会では、小中学校合わせて十二の提案を六つの分科会に分かれて協議しました。「数学的な見方・考え方」「協働的な学び」「教材の工夫」などをキーワードとした各地区の実践が提案され、愛知教育大学の先生方から、それぞれの実践に対してご助言をいただき、大変充実した研修の機会となりました。

分科会後の講演会では、愛知教育大学の飯島康之氏より、「これからの数学教育にとつてのリスクと可能性」という演題でご講演をいただきました。ICT機器を使う授業が増えた中で、今後の数学

教育におけるICT活用の難しさの可能性について、実践事例を踏まえながらご教授いただきました。



講演をされる小関祐之氏

算数数学

「主体的・対話的で深い学び」の

実現に向けた算数・数学教育の実践

令和六年度 愛知県数学教育研究会

小中学校部研究大会田原大会

期 日 八月二十一日(水)

場 所 田原文化会館

参加者 三百二十二名

講演会 「これからの数学教育にとつての

リスクと可能性」

講 師 愛知教育大学特別教授

飯島 康之 氏

令和六年度愛知県数学教育研究会小中学校部研究大会田原大会を、田原文化会館にて開催しました。三河をはじめ、県内各地から、多くの先生方にご参加いただきました。

分科会では、小中学校合わせて十二の提案を六つの分科会に分かれて協議しました。「数学的な見方・考え方」「協働的な学び」「教材の工夫」などをキーワードとした各地区の実践が提案され、愛知教育大学の先生方から、それぞれの実践に対してご助言をいただき、大変充実した研修の機会となりました。

分科会後の講演会では、愛知教育大学の飯島康之氏より、「これからの数学教育にとつてのリスクと可能性」という演題でご講演をいただきました。ICT機器を使う授業が増えた中で、今後の数学

教育におけるICT活用の難しさの可能性について、実践事例を踏まえながらご教授いただきました。ICT機器を授業のなかに取り入れることが当たり前になってきている今、数学教育で求められていることを踏まえ、その活用について一度立ち止まって考える機会となりました。

参加者の声(研修会後アンケートより)

▽分科会で、数学的モデルの話がとてもわかりやすかった。算数の授業に日常生活の教材をもってくることは大事だが、そこに数学的な価値を見出したい。

▽今後の実践で活かすことができそうなサイトを教えていただいた。五年生の円グラフの単元や六年のヒストグラムの作成の際に活用し、児童が知りたいことを選択したり、拡大したりしたい。

▽飯島先生の講演会の内容が素晴らしく、今の自分の授業がいかに教え込みであり、子どもたちに考えさせていなかったと思ひ知らされた。子どもたちに自由に作図や測定をさせて、新たな発見をさせるような授業を行いたい。



講演される飯島康之氏

理 科

自然の事物・現象を主体的、

協働的に追究し、子どもの

資質・能力を育む理科学習

令和六年度 理科部会夏季研修会

期 日 八月二日（金）

場 所 碧南市文化会館

参加者 二百六十三名

講演会 「理科教育の現状とこれから」

講 師 文部科学省初等中等教育局

教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程

研究センター 研究開発部

教育課程調査官・学力調査官

有本 淳 氏

分科会 小学校下学年 小学校上学年

中学校

講演会では、有本淳氏をお招きし、理科教育の現状とこれからについて、ご講演をいただきました。指導の個別化や学習の個性化、協働的な学びなどの説明を交えて「個に応じた指導の在り方」の具体について、教えていただきました。また、理科で育成を目指す資質・能力や理科におけるGIGAスクール構想の重要な役割について説明していただきました。そして、今後の課題として、小学校と中学



講演される有本淳氏

校での理科学習の積み重ねを意識することの大切さがあげられました。参加者からは、「今日の講演会を聞いて、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学び、協働的な学びというのは目的ではないということを改めて理解しました。子どもの資質・能力の育成のために自分はどうなことができるのかを考えて今後に生かしていきたい」という声が上がりました。

分科会では、小学校下学年、小学校上学年、中学校の部会において、それぞれ二地区ずつの提案をもとに、活発な協議が行われました。参加者からは、「実物に触る、デジタルで扱う、どちらもこれからの理科教育に必要なことであり、今後の教材研究へ生かしたい」などのご意見をいただきました。

自然の理を感じられる実践を目ざして

豊川・金屋中 平井祐太郎

今回の研究では、「動物の内臓の実物」を使い、生徒主体の活動を目ざしてきました。実践を進めていくうちに、「小腸はどうしてこんなに長いのだろう」「消化酵素はほかに何があるのか知りたい」と、少しずつ生徒から疑問が生まれ、生徒自ら調べていくことができるようになりました。今後も生徒が自然の不思議さにふれ、自分たちで問題解決ができるような授業実践を行っていきたいと思います。今回の夏季研修会で実践を提案するにあたり、豊川市理科部の先生方に多大なるご支援、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

生活科

新たな価値を創出し、

生活の中に生かす子ども

令和六年度 生活科部会夏季研修会

期 日 八月一日（木）

場 所 へきしんギャラクシープラザ

参加者 二百三十名

講演会 「好奇心・探究心を引き出す

生活科と総合的な学習の時間の単元づくり・授業づくり」

講 師 国立教育政策研究所

教育課程調査官

齋藤 博伸 氏

本年度の生活科部会夏季研修会では、安城市にて、二百三十名の方にご参加いただき、開催することができました。

三つの分科会では、体験や活動がどのように気づきの質を高めて新たな価値を創出するのか、具体的な子どもの姿で提案され、多くの参加者から今後の授業で参考になるという声を聞くことができました。助言者の先生方からは、基調提案ともかかわらせながら提案実践の具体的な場面を取り上げて、子どもたちのとらえ方や、教師の営みを価値付けていただき、今後の授業を構想する上での貴重なご助言をいただくことができました。

講演会では、生活科の単元・授業づくりをテーマに、全国の実践を交えながらご講演いただきました。子どもたちの好奇心・探究心を引き出すために、教師の



講演される齋藤博伸氏

かわり方の重要性を学びました。最後に、本会を開催するにあたりお世話になりました安城支部の先生方に深く感謝申し上げます。

提案を通して

安城・桜林小 中西 浩平

今回の実践では、自分で野菜を育てる中で、仲間とかかわり合いながら自分自身の成長を実感することをねらいとしました。分科会では、先生方からご意見をいただき、実践を見つめ直すことができました。また、愛知教育大学の加納先生からもご助言をいただくことができ、新たな価値を見出し、仲間づくりを意識することの大切さを学ぶことができました。

これからも子どもの実態に沿って単元を構成し、人、もの、こととの出会わせ方や、仲間同士で思いや考えを認め合うことなど、効果的な教師支援を考えていきたいです。

英語（外国語活動）

グローバル社会を生き抜く

英語力の育成

令和六年度

英語（外国語活動）部会夏季研修会

期 日 八月二日（金）

場 所 知立市文化会館

参加者 二百八十四名

講演会 「英語力の捉え方」

小・中における指導と

評価の観点から」

講 師 龍谷大学教授

長嶺 寿宣 氏

本年度英語（外国語活動）部会夏季研修会を知立市文化会館で開催しました。各地区より多数の参加者があり、盛大に開催することができました。

開会行事後の分科会では、四名の先生方の研究発表をもとに研究協議を行いました。身近な題材を使い、子どもにとって必要感のある単元の工夫や効果的なタブレットの活用方法などが報告されました。参加者からは、子どもの興味や関心をもとに学びが深まる授業づくりをしたという声を聞くことができました。助言者の先生方からは、学習意欲の高まりを効果的に学習へ導く方法や学びを授業外につなげることの大切さなど、貴重なご助言をいただくことができました。

分科会終了後には、龍谷大学教授・長嶺寿宣氏にご講演いただきました。小・

中が連携し、四技能を効果的に習得させる方法を教えていただきました。

四技能の特性の違いを明確にし、子どもの発達段階に応じた支援を講じ、学習を行う必要性に気づかせていただきました。参加した先生方からは、言語音と意味への気づきを重視したインプットの機会を充実させたり、子どもの姿からの確に支援の方法を考えたりしていききたいという感想をいただきました。



講演される長嶺寿宣氏

最後に、開催にあたりお世話になりました知立支部の先生方に深く感謝申し上げます。

提案を通して

みよし・三好丘小 田中 鉄成

「子どもと英語との出会いを素敵なものにしたい」そんな願いをこめて、実践を行いました。助言者の寛真由美先生からは、英語を学ぶ楽しさを演出すること、英語が伝わったという達成感を味わわせること、中間交流を通して子どもの困り感を全体で共有することの大切さを学びました。「Teacherではなく、Facilitatorとして、子どもが生涯にわたって主体的に学ぶことができるように支えられる存在でありたいです。」

道徳

豊かな心をもち、

ともにによりよく生きようとする

令和五年度 中部地区小学校道徳教育研究大会

愛知県道徳教育研究大会

期 日 十一月十日（金）

場 所 安城市立安城南部小学校他

参加者 四百四十名

講演会 「子供のよさや可能性を

引き出す道徳教育」

講 師 十文字学園女子大学教授

前文部科学省教科調査官

浅見 哲也 氏

今年度は、夏季研修会を実施しませんでしたので、昨年度十一月に開催した中部道研・愛道研の報告をさせていただきます。安城市立安城南部小学校で、三つの公開授業が行われました。

二年生の授業では、「仲良しではない子に物を貸せるか。」という問いに対して、タブレットを使い、アプリのポジショニング機能で自分の立場を示し、それを学級全体に共有していました。これにより、クラス一人一人の考えが明確になり、その後の変容も見取りやすくしており、タブレットを効果的に使っていました。

四年生では、「泣いた赤鬼」を教材として授業が行われました。「深化発問」や「真の問い」など、多角的な発問を投げかけることで、深い学びにつなげようとしていました。赤鬼の涙の理由を考え、場面では、「泣く」友情はアップした

の？」という補助発問により、児童が多面的・多角的に考える教師の支援がありました。思いを巡らせノートへ記述した児童が、その後の意見交換で生き生きと話することができました。

五年生では、「ドッジボール対決」を教材として、授業が行われました。勝ちたいという気持ちとみんなと団結したいという気持ちをジレンマとして、活発な話し合いが行われました。

このように公開授業の中でICTの活用や発問の仕方、話し合いや板書の工夫など、子供たちに道徳的価値の本質を考えさせる上でよい手だてを示すことができました。

その後に行われた講演会では、講師の浅見哲也氏より、「子供のよさや可能性を引き出す道徳教育」をテーマに話をいただきました。その中で、道徳が「特別の教科」となった現代的な喫緊の課題、そして道徳教育や道徳科の目標について教えていただきました。また、道徳教育で養う道徳性について、その道徳性を構成する道徳的判断力・道徳的心情・道徳的実践意欲・道徳的態度の捉え方を教えていただきました。そして、目の前の子供たちの実態を教師がしっかりと見取り、ねらいを明確にしていく授業実践を進めていく必要があることを学びました。



講演される浅見哲也氏

特別支援教育

一人一人の子どもの教育的ニーズに応じた

特別支援教育の充実

令和六年度

特別支援教育部会夏季研修会

期 日 八月二日（金）

場 所 高浜市地域交流施設 たかびあ

参加者 三百十二名

講演会 「特別支援における授業づくりを科学するー授業の根拠を語るはじめの一步ー」

講師 愛知教育大学准教授 小倉 靖範 氏

分科会 （提案地区）

豊橋・豊川・蒲郡・新城・岡崎・豊田・安城・西尾・知立

前半の講演会では、講師の小倉靖範氏より、応用行動分析の視点から、示唆に富むお話をいただきました。「何によってその子の行動が生起し、その行動によってその子が何を待たのか」を基に学級で起こった出来事を振り返り、目の前の子どもにとってより望ましい行動を引き出すことが大切であると教えていただきました。また、「授業づくりの五つの視点」として、「物理的環境支援」「補助的手段」「人



講演される小倉靖範氏

的支援」「学習機会の在り方」「多様な評価」が示されました。これらの項目を踏まえた小倉氏の実践事例を通じて、手だてや事実、解釈を整理し、研究的思考をもって日々の授業改善を図ることの意義を学ぶことができました。

後半は、七つの分科会に分かれ、提案者の先生方から、実践報告発表をしていただきました。その後、提案を基にした協議や、先生方が日頃取り組みまれている実践についての情報交換がなされました。

夏季研修会に参加して

蒲郡・西浦小 牧野 顕子

第三分科会「交流及び共同学習」に参加しました。豊田・浄水小の伊井先生による、特別支援学校と地域の小学校との交流実践報告をきっかけに、学校間交流の実際について参加した先生方同士で情報交換をしました。

どの地域でも、小中学校間で特別支援学級児童生徒との交流を工夫して行っていることが分かりました。コロナ禍で一時的に減った交流も、形を変えて復活してきているようです。しかし、近年の児童生徒数激増に伴い、交流規模が縮小されたり、方法が限定的になったりしているという問題も明らかになりました。

学校間交流を通して、児童生徒が相互に触れ合うことは、豊かな人間形成につながることを期待されます。今後も子どもたちのために交流・共同学習を推進していきたいと感じました。

総合的な学習

子どもの探究がつながる

総合的な学習の授業づくり（年次）

令和六年度

総合的な学習部会夏季研修会

期 日 七月三十日（火）

場 所 へきしんギヤラクシープラザ

参加者 百九十六名

講演会 「生涯探究社会を見すえた総合的な学習の時間の創造」

「生活」～「探究」～「生き方」の展開を意識した授業づくりー

講師 愛知教育大学教授 加納 誠司 氏

今年度は、まず四つの分科会に分かれて、八地区からの実践が提案されました。各分科会で熱心な質疑応答、助言者の先生のご助言をいただくことができました。

その後に行われたご講演の中で、加納氏は、どのように「生活」探究「生き方」のプロセスで授業をつくるのかについて、ご指導された各地の授業実践をもとに、お話をされました。そのなかで、子どもの生活の中で興味・関心のあることから問いを設定することや、「○○したい」「○○してほしい」などの思いや願いの実現が課題



講演される加納誠司氏

解決の根底にあるということを知り、解説していただきました。そして、探究を通して導き出した最適解を今後の生き方に生かすためには思考し続けることが大切であるとご教授いただきました。

夏季研修会に参加して

豊橋・南稜中 小野 智史

第一分科会に参加し、そこで発表された実践には、生徒が主体的に取り組み続けるための工夫が随所に見られました。一つ目は、生徒が「やってみたい」「調べてみたい」と強く思う探究課題が設定されているということです。「地域の安全を自分たちで守りたい」「地元の魅力を多くの人に知ってもらいたい」という生徒の強い思いがあることで、探究的な学びを展開していけるのだと思いました。二つ目に課題解決までのロードマップを自分たちで制作するということです。「自分たちがやるべきこと」と「大人に頼るべきこと」を整理し、ゴールまでの道筋を順序立てて示すことで、仲間と協働して課題解決に取り組めると思いました。三つ目にゲストティーチャーを活用するということです。避難訓練後に施設の職員や参加した高齢者から感想や意見をもらったり、マルシェの開催に向けて農家や市役所の方からアドバイスをもらったりすることで、生徒の考えはより多角的、多面的に広がっていくのだとわかりました。これらの工夫を、今後の授業に生かしていきたいです。

造形

子どもの思いが広がる造形教育

令和六年度

愛知県造形教育研究会総会並びに

第五十九回愛知県造形教育研究協議会

期 日 八月二十一日（水）

場 所 岡崎市総合学習センター

参加者 二百三十名

研究発表（三河部）

○「やってみたい！」と意思をもって

のびのびと表現する子の育成」

—小学二年「ぼく・わたしたちのペ

たたべったん！」の実践から—

蒲郡市立蒲郡南部小学校

高橋 亜弓 先生

○「作品を通じて自分や他者と対話

する鑑賞」

—中学二年の鑑賞実践を通じて—

豊川市立南部中学校

鈴木美由記 先生

講演会 「常識を疑い自分だけの答えを

—アート思考の実践—

講師 アート教育実践家・アーティスト

末永 幸歩 氏

本年度は、八月二十一日に岡崎市で、県内の小・中学校より、二百三十名の先生方にご参加いただき、愛知県造形教育研究会総会並びに第五十九回愛知県造形教育研究協議会を開催しました。三河部からは、二名の先生に実践を発表していただきました。

蒲郡市立蒲郡南部小学校の高橋亜弓先生は、写して遊ぶスタンプ教材を用いた造形活動を通して、思いをもつてのびのびと表現する子の育成を目指した実践に取り組まれました。「もっとやりたい」という思いをもたせるために、題材構想の工夫や、多様な材料を試せる環境づくりなどの手だてを考え実践されました。

豊川市立南部中学校の鈴木美由記先生は、作品鑑賞をテーマに取り組まれました。アートカードを活用した鑑賞や描かれた年代を考える鑑賞、パッケージデザイン鑑賞など、さまざまな作品や鑑賞方法を通して、鑑賞の楽しさを実感できるよう取り組まれました。

実践発表後の研究協議では、発表者・参観者の間で活発な意見交換が行われました。

講演は、『13歳からのアート思考』の著者であり、アート教育実践家である末永幸歩氏を講師にお招きし、生きることや学ぶことの基盤である「アート思考」についてお話をいただきました。

本年度は、三河地区の多くの先生方にもご参加いただき、図工・美術のよりよい授業づくりについて考えることができる機会になりました。

ご協力ありがとうございました。



講演される末永幸歩氏

その他研究大会・研修会等

愛知県小学校家庭科教育研究大会 10 / 2 刈谷

愛知県中学校技術・家庭科研究大会 11 / 6 みよし

愛知県道徳教育研究大会 11 / 6 名古屋

愛知県生徒指導研究大会 1 / 17 名古屋

愛知県へき地・複式・小規模学校教育研究大会 11 / 1 設楽

授業力養成講座Ⅱ（東三河・小学校） 10 / 21 蒲郡

授業力養成講座Ⅱ（東三河・中学校） 10 / 31 蒲郡

授業力養成講座Ⅱ（西三河・中学校） 10 / 1 豊田

授業力養成講座Ⅱ（西三河・小学校） 10 / 8 みよし

授業力養成講座Ⅱ（西三河・小学校） 11 / 6 豊田

三教研公式ウェブサイトのご案内

三教研ホームページ活用してみませんか？

現在指導案収録件数 300 件

指導案の参考に！

研修の参考に！

すべての子どもの笑顔のために

学習指導案検索

学年、教科等のカテゴリとフリーワードで学習指導案を検索できます。

授業づくりや自己研修のために役立ちます。ぜひご利用ください。

一度充実させるため、会員のみならぬ学習指導案の提供もお待ちしております。

CONTENTS

三河教育研究会について

「教育みかば」バックナンバー

活動予定・日程

活動記録・資料

三教研公式ウェブサイトに関するご意見を事務局までお寄せください。

アドレス： <https://www.sankyoken.jp/>

編集後記

パリオリンピック・パラリンピックは、多様性を強調し、さまざまな背景をもつ選手たちが活躍しました。誇りを胸に競技に向かう姿は、多くの感動を与えてくれました。

今夏の記録的な猛暑のなか、各部会・委員会による研修会、授業力養成講座Ⅰが東西三河で盛大に開催されました。来る二学期に向けて、「研修で得たことを授業に生かしたい」「教材研究を進めたい」という溢れんばかりの意欲と熱意をもった先生方が集い、熱心な協議が行われました。三河の教員として、誇りをもち、学び続ける先生方の姿を、どの会場でも見るのができました。

ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

表紙の写真

「えんちよこ獅子舞」

撮影 高浜市立南中学校

清水美智男 先生

8